

# 英語での情報提供充実を

「九州は地域文化の保全に優れ、環境対応も先進的。ただ、英語による情報提供が依然不足している」。昨年12月に福岡市で開かれた第2回九州・アジアメディア会議でアジア6カ国の記者からこんな意見が出た。九州に入境する外国人客は2013年に過去最高の125万人を突破した。だが、行き先を九州に向けるには、史跡や文化施設を中心に英語による説明やガイドの充実が課題であることが浮き彫りになった。(編集委員 井芹道一) 【3面参照】

## アジア6カ国 外国人観光客 九州へ呼び込むには 記者が提言

国連人間居住計画福岡本部、九経連などがアジア記者の視点を九州観光に生かそうと招聘。北九州のエコタウン、大分県国東半島の地域文化、昭和の町・豊後高田、別府温泉を取材後、福岡・熊本を8記者と「観光と文化」をテーマに討論した。

### ●北九州と水俣

アジア記者の意見をまとめると「中国・上海ディリーのニタオ記者は「北九州では太陽光パネルが市民の寄付で整備されていた。エコタウンは珍しくないが、北九州が公害都市という負の遺産を克服した物語を知り、強い関心を持った」、インドネシア・コンパス紙のヨハネス記者は以前取材した被爆地の長崎や公害経験の水俣を踏まえ

「日本には東京、京都に加え九州があると実感した」という。

### ●地域の独自性

九州の地域文化についてタイ・カオソド紙のテ

「日本には東京、京都に加え九州があると実感した」という。イライナイ記者は「豊後高田の博物館には、日本人同様懐かしさを感じた。子供のときテレビで見た仮面ライダー、ウルトラマン、ゴジラなどの展示があったから」とし、



国連職員らの案内で大分県国東半島の地域文化を取材するアジア6カ国の記者(右側から前列の6人) 昨年12月、大分県豊後高田市の国宝・富貴寺(九州情報リエン)提供

## エコタウン、文化施設、史跡… 「もっと知られていい」

「北九州には日本の未来を、豊後高田では過去を感じた」という。

国東半島では「山の中に大英博物館でしか見られないような貴重な仏像が保存されていた。これが文化だと思った」と韓国・釜山日報の金銀英編集委員。

ニタオ記者は「国東では地域の独自性が保全されていた。福岡市博物館でも中国の漢時代の作品が保存されている。九州全体に共通することだが、もっと知られていい」。

### ●共通の課題

九州の共通の課題は「やはり英語による説明文が少ない点。タイでも有名なくまモンは話さないから普遍的。九州各地の文化は魅力的なのに、意味が分からないから通じない」とタイライナイ記者。

フィリピン・インクワイアラーのシンシア編集委員は「マニラでは旅行会社が文化、芸術、祭り

をテーマにツアーを組んでいる。九州でも充実しては」。

ベトナム通信のトゥルエン編集局長は「私の目に魅力的なものは九州の地域や田舎にあった。人々がどんな家に住み、生活をしているのか。民家に泊まってみたい。ホームステイの振興を」と提言した。

### ●人との出会い

ゲストで福岡アジア文化賞を受賞したシンガポールの男性舞台芸術家オレン・ケンセンさんは「パリのエッフェル塔も一度見たら行かない。九州が魅力を増やし続け、再訪客を増やすには訪問地の人との出会い、心を動かす雰囲気をつくってくれるかに鍵があると思う」とアトバイスした。

